

EV to EV concept

Energy transfer



平成25年9月
株式会社マイダス・ラボ

はじめに

- 電気自動車が電欠した際、その場に出向き、応急充電を行う電欠レスキューは、電気自動車の普及に必要な不可欠なソリューションです。
- EV to EV conceptは電気自動車をその給電カーとして利用します。これはガソリン車に頼らない電気自動車による電気自動車のための電欠レスキュー構想です。
- マイダス・ラボはこの為の急速充電器を販売します。
- この充電器は 電気自動車のトランクに搭載でき、給電用のエネルギーにはレスキュー車自身の走行用バッテリーを使います。

社会的な意義

- EVドライバーの電欠時の不安を解消します。
- それにより電気自動車の普及を促進させます。

※アンケート結果(EV所有者と購入予定者各100人)から、EV所有者の81%が電欠への不安があり、96%がその場で充電をするロードサービスを求めていることが分かります。
(2013/5に弊社が大手リサーチ会社に依頼した調査結果から)

Q1:電気自動車の使用にあたって、あなたは電欠への不安はありますか。	Yes (%)	No (%)
全体	80.0	20.0
EV所有者	81.0	19.0
EV購入検討者	79.0	21.0

Q2:あなたは、電欠時にその場に来て充電してくれるロードサービスは必要だと思いますか。	Yes (%)	No (%)
全体	97.5	2.5
EV所有者	96.0	4.0
EV購入検討者	99.0	1.0

EV to EV CHAdeMO Charger(EECC)

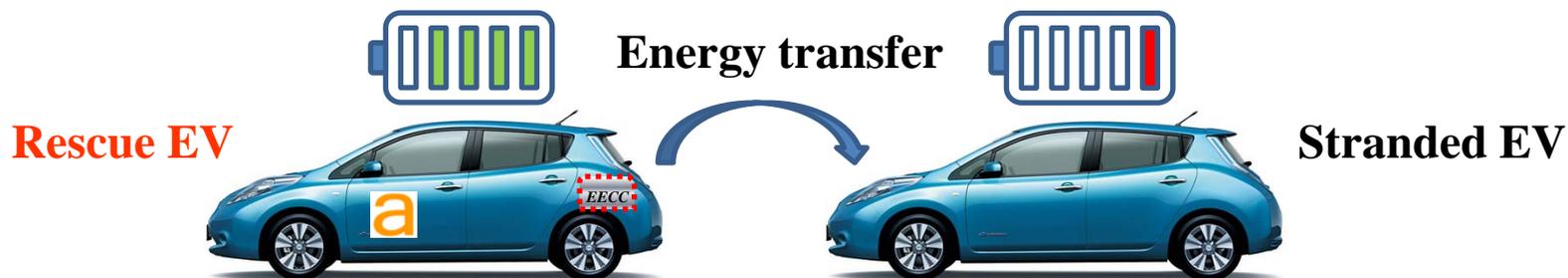
電気自動車のトランクに搭載できるCHAdeMO仕様の急速充電器です。

<特徴>

- CHAdeMO仕様の最大出力(50kW)に対応
- エネルギー源は電欠レスキュー車の走行用バッテリーを使用
- 6-10分で、5 KWhの電力が急速充電可能

<効果>

- 電気自動車への搭載は容易で、安価な電欠レスキュー車を提案します。
- 大型の発電機やバッテリーは必要ありません。
- 充電された電気自動車(Stranded EV)は、30-40kの走行が可能です。



EV to EV Rescue Concept

- 50Km圏内
自走して現地に赴き、給電作業を行い、自走して基地に帰還します。
 - 80km圏内
自走して現地に赴き、給電作業後、最寄の急速充電設備で自車の充電を行った後に基地へ帰還します。
- ※レスキュー車のバッテリーが24KWh、電費を6km/kWh、レスキュー時の応急充電量を5KWhで試算した場合です。